

「今後の子どもの放課後の居場所作りのあり方」 に関する論点整理

令和4年10月5日

墨田区子ども・子育て会議 学齡ワーキンググループ

放課後子ども教室の充実

【運営体制の構築】

論点 1 : 地域とPTAが連携した運営体制をどのように構築するか

論点 2 : 担い手の不足をどう解消するか

学童クラブの待機児童解消

【待機児童の解消】

論点 3 : 実施場所の不足をどう解消するか

論点 4 : 自宅からの距離等、利用者が希望する条件とのマッチングの問題をどう解消するか

論点に関する委員意見（要約）

【論点1】（放課後子ども教室）地域とPTAが連携した運営体制をどのように構築するか

- ・地域の方とPTAとの連携はどここの学校でも課題に感じている。地域とPTAの連携のバックアップや、地域の方がいつでも運営に参加できる環境作り、運営自体を知らない地域の方への周知等、行政の支援が必要である。
- ・PTAは任期による交代があるため、PTAが中心となって安定的に運営していくことは難しい。学校と地域の方が主体となり、そこにPTAが入っていく形が望ましい運営体制と思う。三者をまとめるための場を行政に作っていただくのが必要である。地域の方が携わることで、週1回以上の運営体制も可能になるのではないか。

【論点2】（放課後子ども教室）担い手の不足をどう解消するか

- ・担い手となる地域の方は高齢の方が多く、若い人が中々いないので、世代交代や担い手を広げることが難しい。
- ・地域の方は見守りに対する責任を非常に重く受け止めており、それが担い手不足にも繋がっているため、意識のハードルをいかに取り除くかが重要である。
- ・学生ボランティアの活用や民間事業者への委託、教育資源バンク等の活用が、担い手不足の解決策になるのではないか。

【論点3】（学童クラブ）実施場所の不足をどう解消するか

- ・民間物件の賃貸ではなく、幼稚園や学校の空き教室等、様々な公共施設の活用は考えられないか。

【論点4】（学童クラブ）自宅からの距離等、利用者が希望する条件とのマッチングの問題をどう解消するか

- ・自宅から学童クラブまでの距離等、利用者が希望する条件と既存施設の条件が一致しないことで待機児童に繋がっているケースもあると思うが、どのような対応が必要か。